

今月のおもな記事

- 共同組織拡大強化月間(1面)
- 福島の今を知ろう(2面)
- 反貧困ネット信州が県と懇談(3面)
- 戦争させない!9・19集会(4面)



長野県民医連

長野県民主医療機関連合会
2016年10月25日 第310号

事務局
〒390-0803 松本市元町2-9-11 民医連会館2F
☎0263-36-1390 FAX 0263-33-1229
Eメール kikanshi@n-mr.com
URL http://www.mintyo.or.jp/min-iren
[月1回25日発行 定価100円・加盟院所職員は会費に含む]

共同組織拡大強化月間開催中

県連で3200人の仲間を 迎え入れよう!

9月から11月にかけて、各地域連絡会で組織拡大月間が取り組まれています。あらためて共同組織と歩む意義を学び、医療や介護の充実、まちづくりへの課題をともに広げていきましょう。

長野

月間では、来春4月に開設予定の「南長池グループホームれんげそう」の事業成功を軸に、新組合員加入と増資に取り組んでいます。職員は、地域のペア支部との2回の行動参加を目標に活動しています。



「南長池グループホームれんげそう」地鎮祭

中信

「共同組織講座」が月間スタート前日の8月31日に行われ、40人が参加しました。友の会と共に歩んできた歴史や職員が積極的に活動に関わる意義などを学び、グループ毎に「友の会入会よびかけ」「月間啓発」ポスターを作成。参加者は各職場の職員や患者さんの目につくところに掲示し、職場会議で友の会拡大の意義を訴えました。



制作したポスターの1枚

グループワーク

東信

8月27日、第11回支部活動交流集會を開催し、83人が参加しました。「つながりマップからはじめるまちづくり」と題して医療福祉生協連の中島あきこさんが講演。「『地域の困った』を共有しよう。今あるつながりや新しいつながりで解決を考えよう」と地図を使って実習しました。「組合員宅を記入した地図を初めてみた」「独居の人がどこにいるか、意外と知らない」等の意見が出され、月間を通じてさらに充実させる運動になればと感じました。(月間ニュースより)



上伊那

9月9日のスタート集会で、入職1年半の検査課職員から、「職員も組合員さんの医療生協に対する思い・要求を確認しよう」「職員もこれまで以上に積極的に月間に関わろう」と発言がありました。出資金への取り組みも組合員さん任せとなっていたのではないかと反省し、「自分たちの病院である」ことを職場内で訴え、職員の出資金増資の具体化にも取り組み始めました。



飯伊

健和会では、生活支援を必要としている人たちの実態を調べるために、月間中の地域訪問時に聞き取りアンケートを実施しています。昨年、一昨年は地域の特徴や高齢者の、「買い物に行けない」「雪かきができない」「ゴミだしができない」など生活実態がよくわかる結果でした。今年は3年目に入り、データを蓄積して、事業活動に反映していきます。



訪問行動



音楽に合わせて(つるみね共立診療所)

諏訪地域連絡会では、9・10月の共同組織強化月間に先立ち、6月1日、岡谷で地域のよりどころとして気軽に寄つてもらえる居場所として、また、健康づくりや健康チェックを定期的に行う拠点として、「つるみね共立診療所」を開設しました。9月10日、この「つるみね共立診療所」の待合室カフェ「ちいきの保健室」がスタートしました。毎週約20人が訪れて好評です。会員さんのボランティアによるうたごえなどの楽しい企画、近隣の歯科の先生による歯の話など多彩な内容です。

下諏訪では、9月から「ゆいまーる西弥生高齢者複合施設の地域交流センター」でロコモ予防教室が始まりました。月に2回、リハビリ職員が講師を務めています。他の地域で

事業所は地域のよりどころ

諏訪

もロコモ予防教室をやつてほしいと広がります。このような取り組みや助け合い事業、また地域訪問などで、9月は約1000人の入会がありました。目標の300人をめざし、引き続き取り組んでいきます。



ロコモ予防教室

切開

2016年7月号の「民医連医療」で、元自衛隊三等陸曹の泥憲和さんの文章を読み、正しい知識、正確な情報が本当に大切と感じました。安倍内閣が成立した直後の2013年1月30日、中国海軍の艦艇が海上自衛隊の護衛艦へ射撃用レーダー照射を行い、「中国の過激化する挑発」と大々的に報道されました。この事件には裏があります。それまで他国の艦艇が領海付近に進出した時、28kmの距離を置いて並走していた海上自衛隊の規則を、1月5日に安倍首相が3kmまで接近するように指示をしたそうです。そのため、1月30日に中国海軍のフリゲート艦に海自護衛艦が約3kmまで急接近、驚いた中国海軍は交戦規定に基づいて射撃管制レーダーを照射したのです。事件が起きた海域は、日本沿岸から100km以上離れた公海上でした。公海上で事前通告もなく他国の軍艦の艦艇に急接近すれば、軍事的挑発と受け取られます。危険極まりない事件の原因が、安倍首相の指示にあることは明らかです。日本の危機管理でまず手を付けるべきは、安倍首相を権力を持たない普通人にすることではないでしょうか。(熊)

NO WAR! 平和憲法守る私の声 ③ 小山 秀樹



私は就職氷河期世代の1978年生まれで、38歳になります。氷河期の中でも特に就職が厳しかった2000年に就職活動をしていました。不況の中、企業の倒産が相次ぎ、安定を求める学生やその親が就職先を公務員、金融関係へと誘導していたことを覚えています。

就職して間もなく「聖域なき構造改革」「構造改革なくして景気回復なし」というスローガンの小泉政権が誕生し、その後安倍内閣まで診療報酬を含む社会保障関係費が漸減し、倒産する病院や、お金がなくて医療・介護が受けられない医療、介護難民が増えました。新自由主義的政策が格差と貧困をもたらし、弱者を見捨てた政策が断行されました。基本的人権崩壊の始まりです。

特に昨年の9月19日に集団的自衛権の行使容認を含む安全保障関連法が参議院で可決され、成立したことは大変憤りを覚えました。自衛隊は軍隊ではないので万が一拘束された場合、国際法上の捕虜にもならず、ケリラ部隊と同様の扱いとされ、正当な待遇や裁判が受けられません。自衛隊を海外に派遣することはあまりに危険が大き過ぎます。自衛隊員も一国民です。現行憲法下にある基本的人権を軽んじているからこそ拙速に進めているのだと思わざるを得ません。

自民党が出している改憲草案についても同じです。基本的人権を守ろうとする考えが失われ、「政府のやりたいようにしたいから邪魔をする者は全て排除する」というものです。集会、結社、言論の自由、その他基本的人権も政府により制限されるので法律によっては人権剥奪もできます。もはや民主主義ではありません。国民主権、平和主義を無視し、戦争が何時でもできる憲法に変えようとしています。安保法制の時、義憤に駆られた「SEALDs」という若者の集団が国会前で連日集会を開いたように、誰かではなく、自ら主体的に行動するのは今しかありません。

安保法制

安保法制
今更なる悪行のせき
自衛隊の諸君
南スガタマ

南スガタマ
内閣
大分キリン、フクロウ
憲法の条に基き
平和的・人道的な支援も
可なまじ

現地に落ちる者
内閣は
ありえませぬ
行け行け
行け行け

内閣は
行け行け
行け行け
行け行け

反貧困ネットワーク信州が県と懇談 生活困窮者への行政が果たす役割の改善を要請



9月9日、長野県庁で反貧困ネットワーク信州が県健康福祉部地域福祉課と「生活困窮者支援」に関する懇談会を行いました。生活困窮者自立支援法に基づき、県が市町村や社協に委託し、暮らしや就労に関する総合的な相談を行っている「生活就労支援センター」通称「まほば」県内34か所の支援内容について、

生活保護利用に関わる「まほば」協会の「まほば」が女性支援に関わる「まほば」という縦断的な発想で連携せず、「まほば」が孤立してしまっていること、生活保護に関する事例などについて、生活保護利用に関わる「まほば」協会の「まほば」が女性支援に関わる「まほば」という縦断的な発想で連携せず、「まほば」が孤立してしまっていること、生活保護に関する事例などについて、

生活保護利用に関わる「まほば」協会の「まほば」が女性支援に関わる「まほば」という縦断的な発想で連携せず、「まほば」が孤立してしまっていること、生活保護に関する事例などについて、

2分で読めるミニ学習

Q 栄養サポートチーム(NST)とは?

A 栄養サポートチーム(Nutrition Support Team)以下NSTとは、多職種が共同して、さまざまな疾患を抱えた患者さんに応じて、適切な栄養管理を行う医療チームの事です。

長野中央病院では各病棟単位でのNSTと、そこで難渋するような症例に対して院内全体に介入する全科型NSTがあります。

全科型NSTでは、経腸栄養で下痢や嘔吐などの合併症が発生する患者さんに介入したり、食事摂取が不良な人には、食事の内容・内服薬・輸液の検討、褥瘡の処置検討などを行っています。職種では解決できないサポートが必要とされています。

被災から5年目、福島を知るろう

10月16日行われた新潟県知事選挙で、東電羽根野原の再稼働反対を掲げた米山隆一さんが容認派の与候補を破って初当選しました。再稼働NOの審判は、原発廃止の大きな一歩です。今号は福島を忘れずともたたかうための学習会、現地支援を紹介しします。

講演会 福島5年目の真実

9月10日、生協総合センター、いわしほ地域交流ホールで、獨協医科大学国際医学研究センター木村真三准教授の「福島5年目の真実」をテーマに30分間の講演会があり、57人が参加しました。



木村准教授の講演

木村准教授は、チルノイリ原発事故後の調査や救援に長く関わり、その経験から福島原発事故の直後から現地に入り、現在は「本松市に研究室分室を設置して支援活動を行っています。」

震災支援 上伊那生協病院から9回目の東北支援へ



震災当時の様子を知る職員

東日本大震災から5年の月日が経過し、そろそろ復興が進んでいるのでは?と思っている方も多いのではないだろうか。上伊那生協病院は震災から毎年、健康チカラや食事のアドバイスを班会という形で継続的に行っています。

学習 原発政策の失敗を国民負担に?

安倍政権は閣議決定で、原発を「重要エネルギー」と位置づけ、2030年には原発比率を20〜22%として積極的に活用しようとしています。そのための原発再稼働を進め、

2号機は耐震工事で休止、九州電力川内原発1号機は鹿児島県民の運動で三反園知事が運転停止を申し入れ、定期検査の1ヶ月も停止している。現在稼働中のは四国電力伊方原発3号機だけだ。世論も「重要エネルギー」を選んだ国民にもその負担を押し付けようとしている。

各電力会社の出力ピーク日の電力使用量

電力会社	月日	使用料(%)
北海道	8/8	78.2
東北	8/5	82.1
東 京	8/9	87.4
中 部	8/8	91.4
北 陸	8/25	88.6
関 西	8/22	90.3
中 国	8/25	88.6
四 国	8/22	89.5
九 州	8/22	93.4

(「しんぶん赤旗」参照)

被災地は道路や駅、堤防などが新しくなっているように見える。しかし、住民の生活は、居住スペースの確保、身体的な健康問題等、安心、安定した生活を営むことが、今後の不安も開かれました。

被災地は道路や駅、堤防などが新しくなっているように見える。しかし、住民の生活は、居住スペースの確保、身体的な健康問題等、安心、安定した生活を営むことが、今後の不安も開かれました。

含めるとさらに膨れ上がり、原発は決して安くはないことを証明しました。その上、廃炉費用は保有する大手電力会社負担が原則ですが、「巨額のため、原発とは関係ない」「新電力再生可能エネルギー」を選んだ国民にもその負担を押し付けようとしている。

東 南 西 北

健康まつりに新企画
10月2日、塩尻協立病院で第22回健康まつりが行われました。今年新しく健康吹き矢や介護予防体操、認知症自己判断テストなどが企画されました。健康チカラコンクローヤ各種商品は毎年盛況です。来場者の健康つくりに関するよう友の会、職員総出で取り組むお祭りも成功させました。

東 信

「すしお生活みそ汁飲み比べ」
9月10日、上小協同組合(上り)がマルシェ(マルシェ)で行われました。コブなのや漁業組合と一緒に「参加して年自、健康チカラ」を初めに「我が家の味噌汁は濃い、薄い?」に取り組みました。41人が試飲して「我が家の方が濃い!」は8人約2割に響くよう友の会、職員総出で取り組むお祭りも成功させました。

上伊那

731部隊の体験を聞く
9月15日、市那那医療生協で秋元浩さん(仮名)の戦争体験を聞きました。秋元さんは戦争中731部隊に隊し実際に活動した経験から当時の話や今を生きる世代に伝えることを語り、聞かれました。731部隊について語り、聞かれました。戦争の歴史、悲しさを改めて知り、再び国に戦争をさせないよう強く感じました。

飯伊

「平和の集い」を開催
9月7日、「平和の集い」を開催。水禁世界大会に参加した人々の職員による報告と、平泰弘弁護士による「憲法と平和」と題した講演を聞き、憲法改正について学びを深めました。地域の人や職員が46人が参加し、戦争を知らない世代が増える行、今、後世に伝えていく事の大切さを改めて感じました。

諏 訪

DMA T訓練会場に
10月15日、クアセンター赤砂で避難訓練を行いました。今年から「地域災害救助隊」を編成し、地域から15人のみなさんも参加してくれました。今回は中部地域DMA T訓練会場となったことで、クアセンターの避難訓練の後に広域消防による救出訓練(DMA T)による訓練も行われ、大災害時対応の強い訓練になりました。

長 野

特養あすみの里裁判の無罪を勝ち取る学習支援集会が、9月28日、長野中央病院で開かれ、約200人が参加しました。村上弁護士から裁判の経緯、背景等を学習し、あすみの里介護職員の徳原さんから「訴えを聞きまし、まさに不当な起訴で、介護の未来に影響を及ぼすもの。支援活動に力を入れたい」と思ふ学習会でした。

「戦争法」強行採決から1年 戦争させない！9・19集会

2015年9月19日、安倍政権は憲法違反の安保関連法(戦争法)を数の力で強行成立させました。いま自衛隊は「駆けつけ警護」という新たな任務を課されて内戦状態の南スーダンに派遣されようとしています。9月19日、安倍政権の暴走止める！自衛隊は戦地に行くな！を掲げ、全国で行動があり、長野県内でも40か所以上で集会が開かれました。



上伊那

上伊那9条の会連絡会の呼びかけで、伊那市グリーンファーム付近でスタンディングアピールを行いました。31人が参加し、歌あり発言ありでわいわいと活動し戦争反対の意思をアピールしました。

中信

「本気で止める戦争 松本アクション」が松本駅前で行われ、約300人が参加。デモ行進の間は雨模様でしたが、それでも休日の駅前、声が届いた人は千人単位でした。この他、大町、塩尻、穂高でも取り組まれました。



元京大原子力実験所助教の小出裕章さんもあいさつ

長野



長野市では、戦争させない9・19実行委員会による集会が上千歳広場で行われ、230人が参加しました。リリーススピーチで「自衛隊員の命が危険にさらされている」と訴えた後、プラカードを手にデモ行進しました。

諏訪

「9・19を忘れない集会in下諏訪」を諏訪共立病院前で行いました。50人以上に参加者が、プラカードを掲げスタンディング、スピーチを行いました。「あの強行採決は絶対に許せない」。自衛隊が殺し殺される危険性が高まっています。1年前の怒りを忘れずに、廃止に向けた取り組みを続けなければ。



東信

あいにくの雨天でしたが、上田駅前の幸村公銅像周辺で、約70人が参加しました。手に手にプラカードを持つ安保法制反対の怒りのスタンディング行動で、それぞれの意思表示をしました。

飯伊

9.19飯伊地区集会は、「戦争をさせない1000人委員会・飯田下伊那」「憲法九条を守り広める飯伊の会」が主催し、飯田中央公園で開催されました。200人の参加者が集会とアピール行進を行い「戦争NO!」「9条守れ!」とシュプレヒコールを行いました。

